

生物機能を活用した環境負荷低減技術の開発

【136（194）百万円】

対策のポイント

作物が本来持つ病害抵抗性やアレロパシーなど生物間相互作用を活用することにより、化学肥料や農薬の使用を低減する農業生産技術を開発します。

（アレロパシーとは）

生態系の中で、ある植物が環境中に放出する化学物質によって他の植物の生育が阻害される現象で、これを利用して雑草を抑える技術などが研究されています。

政策目標

環境保全型農業技術の開発、普及に貢献

<内容>

1. 生物機能を活用した生産管理技術の開発

植物自身を持つ病害抵抗性を人為的に強化することによる病害防除技術、害虫の天敵を誘引する物質を利用した害虫防除技術、微生物を活用して作物の養分吸収を促進する技術など、作物が本来持つ機能や生物間の相互作用を活用した生産管理技術を開発します。

2. 病害虫センシング技術の開発

生物機能を活用した病害虫防除技術を効果的に実施するため、フィールドサーバ（温湿度等のほ場状況をモニタリングする装置）、フェロモントラップ（フェロモンを用いて害虫を誘引する装置）等を活用した病害虫発生予察技術を開発します。

<実施主体等>

実施主体	民間団体等
実施期間	平成16年度～平成20年度

[担当課：農林水産技術会議事務局研究開発課（03-3502-0536（直））]